

大学教育学会 第 39 回大会 学会発表報告

「分散型 IR 体制における人材育成プログラムの開発」

2017/06 報告者 姉川 恭子 (助教)・中山 勝博 (職員)

日時 2017年6月10日(土)~11日(日)

場所 広島大学

内容 大学教育学会 第 39 回大会 学会発表

発表者 姉川恭子 (登壇)、中山勝博、山田晃久、永間広宣

発表の概要「分散型 IR 体制における人材育成プログラムの開発」

本発表では、早稲田大学における分散型 IR 体制の中で人材育成を行うための、「初任者向け IR 人材育成マニュアル」について報告しました。

IR を推進していくために必要な人材育成が求められる一方で、本学では既に体系的に SD 研修が実施されています。現在、人事課と協力しながら、マニュアルを活用した人材育成プログラムをいかに組み込んでいくか検討中です。

学会中、多数マニュアルの詳細についてお問い合わせいただきました。今後、センターのホームページにて一部公開予定です。(姉川)

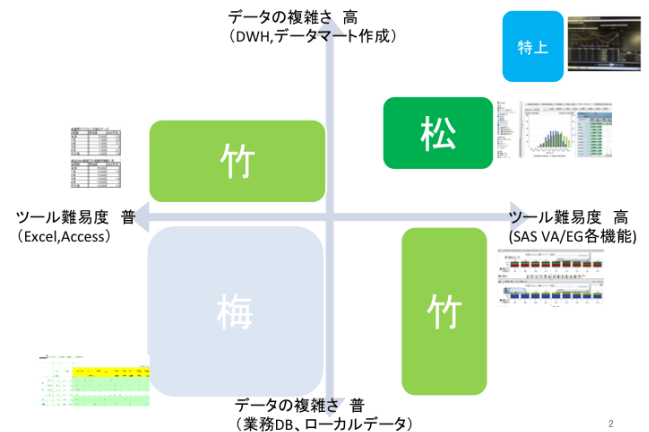


図 1. IR プロジェクトの「松竹梅」

IR 取組の主体と客体の視点

元々「一般教育学会」であり、かつ「研究（理論）と実践の行き帰り」を特徴とした学会ならではお聞きできる、調査結果や試行的取組紹介事例発表も多く、本報告もその内の一つとしてご理解いただけたと思います。

多くの事例発表に接することで、個別大学の置かれた IR の背景や文脈が「教学マネジメント、質保証、FD、授業改善、学生効力感、etc」の単一・複数の項目との関連で多様に実践されており、本学の取組を相対化・客体化した視点を持つ良い機会となりました。

今後も本学 IR の取組を進める際には、「井の中の蛙」的視点でなく、時々国内や海外の状況俯瞰できる「鳥」の視点を持てる機会を大切にしたいと痛感しました。(中山)

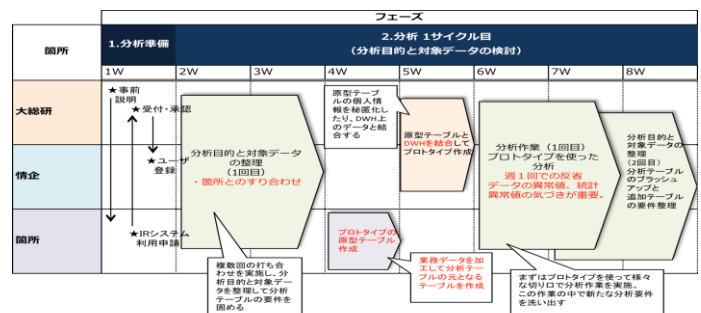


図 2. IR プロジェクトのスケジュール

